

+.....+
【ケアプロ通信vol.111】
12月度ニュース:「KEIO MED EXPRESS CARD」と連携
+.....+

いつも大変お世話になっております。
ケアプロ広報担当です。

師走をむかえ、世間の慌ただしさとともに
寒さに凍える時期にもなりました。

機能性の高い防寒グッズが目にとまりますが、
その性能を十分に発揮させるにも、
土台となる健康な体があつてこそ。

睡眠時間の確保をはじめ、適度な運動、体を温める、
腸内環境を整える、よく笑うなど...
これらを続けて行うことで、免疫力があがり、
寒さに負けない丈夫な体が維持できると言われています。

土台なくして家は建たないといいますが、
体も同様のことが言えるのかもしれませんが。

年末ご多忙の折、健康には十分にご留意ください。

それでは12月度のニュースをお届けいたします。

+.....INDEX.....+

- 【1】代表 川添高志
 - 1) ケアプロ14周年♪
- 【2】 予防医療事業部
 - 1) 「骨の健康チェックイベント～実績共有～」
- 【3】 在宅医療事業部
 - 1) 16期事業計画発表会を行いました！
 - 2) 第3回従業員満足度調査を行いました！
- 【4】 交通医療事業部
 - 1) 「KEIO MED EXPRESS CARD」と連携
 - 2) 子供に人気のU6ランバイク大会で救護
 - 3) スポーツ庁事業でレノファ山口とタッグ
 - 4) 社会人インターン募集

+.....+

+……………代表 川添 高志からのメッセージ……………+

1) ケアプロ14周年♪



ケアプロは、2007年12月12日に創業して、14周年となりました。
多くの方々のお陰で、ここまでやって来ることができました。
ありがとうございます！

年に一度の全社の集まりで、この一年をみんなと振り返りましたが、
今年もオンラインで、産休中や遠方の社員も参加できたのはよかったものの、
やはり直接会えないのは寂しく、来年は会えたらなと思います。
写真は、社歌を歌ってくれた看護師ミュージシャンの高橋さん。

今年は、同じ2007年に創業した、小児専門の在宅看護・介護のHUGを
5月に事業承継し、11月末に代表の上藺さんが退任する際に、
花束をお渡しして握手をして、これからも会社を宜しく願います、
と言われて、胸にくるものがありました。
そして、自分もいつかこんな感じで退任できたらなと思いました。

私たちは、スタートした瞬間に出口へと向かっています。
そのため、始めることと同じくらい終わりを自分で決めることや
始めることと同じように終わることの準備をしっかりとっておきたいものです。

15年目もどうぞ宜しくお願いします！

+……………予防医療事業部長 大関 夏子からのメッセージ……………+

1)「骨の健康チェックイベント～実績共有～」

ケアプロ通信 (vol.108)で実施報告をしたイベントの実績を共有いたします。
9月中旬に5者協働※で骨の健康チェックイベントを実施いたしました。

イベント詳細は[こちら](#)

※アムジェン株式会社、株式会社フージャースケアデザイン、
公益財団法人骨粗鬆症財団、ロコモチャレンジ！推進協議会

今までケアプロで実施したイベントと大きく異なるのが
「その場限りではない支援」だということです。

受診お勧めのご案内をした方には後日、ケアプロ看護師が電話で通院状況の
ヒアリングを行い、アフターフォローを実施しました。
測定された173名のうち72名の方が「受診をお勧めします」という結果でした。

ヒアリングを行った結果、そのうち19名(26%)の方から新たに
病院受診した(もしくは近日中に受診する)という回答をいただきました。
約3割の方の受診行動につなげることができました。

今までは受診勧奨を行った後に、受診したかどうかを確認することが困難でしたが、
協働者様とタッグを組むことで追跡可能な仕組みを作ることができました。

これにより、リスクの高い方が病院に受診するためには、どのような動機付けが必要なのか、
また病院に受診しない方はどのような障壁があるかのノウハウを得ることができました。

今後も協働者様と話し合いを重ねて、より多くの人の受診行動につなげ、疾病予防に
貢献していきたいと考えています。

高齢者住宅施設を運営されている方や、製薬企業の皆様、予防啓発イベントを
ケアプロに
お任せしてみませんか？

少しでも興味がありましたら、営業までお問い合わせください。

▼デュオセーヌ国立(骨のチェック測定後、ご利用者様への説明の様子)



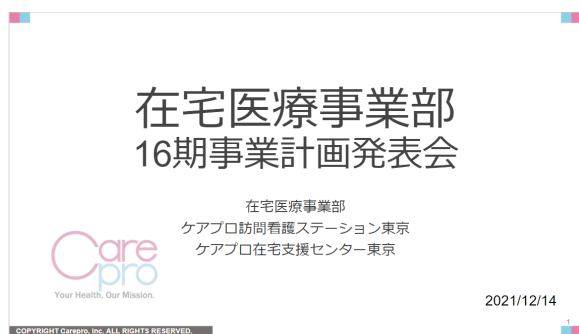
+…………在宅医療事業部長 金坂 宇将からのメッセージ…………+

1) 16期事業計画発表会を行いました！

ケアプロでは12月が年度始まりで、在宅医療事業部では、毎年12月に事業計画発表会を行っています。この発表会の中では、1年の振り返りで、できたこと、できなかったこと、これから取り組むことなどをスタッフ全員で共有しています。また、この時間は、スタッフ一人ひとりの頑張り、成長が、組織全体の成長につながるための目線合わせの時間にもなっています。

毎年12月になり、発表会を行うと、この1年間でやってきたことを振り返ることができ、スタッフ一人ひとりの頑張り、成長が感じられ非常に幸せな時間です。

16期もたくさんのごことに取り組めますが、引き続き、組織一丸となって成長していける組織を目指して取り組みます。



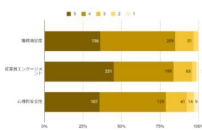
2) 第3回従業員満足度調査を行いました！

1年前から開始した、従業員満足度調査の第3回を実施しました。

見ている指標と平均値(5点満点)はそれぞれ、職務満足度4.17、従業員エンゲージメント4.23、心理的安全性4.03 となりました。昨年から比べても高い値となっており、継続して行っていくことで、組織分析の指標として徐々に活用できるデータとなってきました。

また今回から、組織で大切にしたい風土についての質問をしましたが、お互いを尊重し合い、思いやれる風土、人間関係、雰囲気が良いなど大切にしている風土についての意見が多く寄せられました。これは組織としても1番大切にしていることであり、それがスタッフにとっても大切なことになっていることが、非常に嬉しいです。

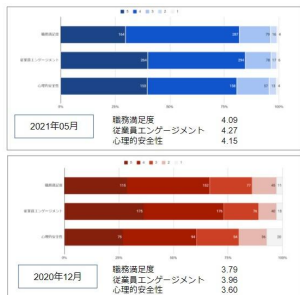
教育体制、環境、風土の変化 > ES調査結果



※最高得点を5点で評価しています。

> 平均値
職務満足度 4.17
従業員エンゲージメント 4.23
心理的安全性 4.03

・回答数43名、前回より少ない。
・特徴として心理的安全性が一番低い状態は変わらず



+……………交通医療事業部長 川添 高志からのメッセージ……………+

1)「KEIO MED EXPRESS CARD」と連携



ライフカード社が発行する「KEIO MED EXPRESS CARD」と
外出支援のドコケアが連携します。

加藤看護部長をはじめ、お世話になっている慶應病院の患者さんが
使っているカードとのタイアップということで、嬉しく思っています。

このカードは、会計に並ばずに帰ってOK(会計は自動処理)です。
このような病院内外での多様なサービスは、患者の満足度向上や
治療継続、家族の介護負担軽減等につながります。

そして、次の外来予約とセットで、タクシーや付き添い支援のドコケアも
一緒に予約できるような医療分野でのMaaS(Mobility as a Service)を
実現できたらと思います。

慶應病院の患者さんからの印象的な依頼がありました。
80代の方で、外科手術を受け、抜糸のための退院後初めての外来でした。
1日に5つも診療科を回る必要があり、まだ体調も完全に回復しておらず、
一人では無理と思ったところ、ドコケアを紹介されたようです。

当日は、自宅で介助者と待ち合わせ、タクシーで病院まで行き、
一人だったら玄関で降りて終了ですが、そこから介助者がエスコート。

診察の待ち時間が長く、感情的になられる時もありましたが、
お話を伺ったり、カフェやレストランにも行きました。

介助者の方は、緊張していたとのことですが、
インテリアショップでの接客経験があり、きめ細やかな対応をされ、
最後には「本当に助かったよ」と感謝されたようです。

日本の医療や介護は、皆保険制度により、
フリーアクセスと言われているものの、accessibleではありません。
もっと寄り添える医療のために、ラストワンマイルを埋めていけたらと思います。
コラボ企画の準備や対応等の関係者の皆様には改めて感謝です。

※詳細は[こちら](#)

2) 子供に人気のU6ランバイク大会で救護

2021年10月24日(日)に横浜で開催されたランバイクレースにて、サッカーナースがメディカルサポートを行いました。



子供たちの真剣な眼差しが印象的でした。
そして、「スポーツ看護師」を天職とするママさん看護師が熱いです。
「子ども、スポーツ、看護、この好きなもの3つを掛け合わせて
仕事ができたらどんなにいいだろう、とずっと思っていました。」

ランバイクは、今、全国で広まっており、幼少期の運動神経や自信、勝負魂において、大きな影響を与えています。

しかし、子どもは、気がつかないうちにオーバーユースになり、悪化してから「痛い」ということがあります。

成長期の選手にとって、試合は大事ですが、怪我や障害が起きてしまったらプレーに支障をきたし、長く競技を続けたい選手にとっては致命的になります。

急性期の治療をうけても、家に帰ってからのサポートも重要です。

スポーツをする子どもの成長期特有のココロとカラダのことをしっかりと知る機会があれば、家でできるケアはたくさんありますし、その後のより充実したスポーツライフにつながっていきます。

スポーツ看護師が、子供や親、スポーツチームのトレーナー的な役割も担い、様々な情報を発信していけたら、「外傷」だけでなく「ココロとカラダの障害」の予防もケアしていける心強い存在になります。

※詳細は[こちら](#)

3) スポーツ庁事業でレノファ山口とタッグ

サッカーJ2のレノファ山口とのスポーツ庁事業が決定しました。



「ダイバーシティを軸とした新たな観戦体験の提供」というテーマで、高齢者や障害者のサポートをして「誰もが集うスタジアムに」を実現します。

ただ、弊社の山崎が、現地スタジアムに足を運び、高齢者が観戦することを想定して確認すると、様々なハードルが見えてきました。

- ・そもそもメインスタンドにしかエレベーターがない
- ・メインスタンド以外はトイレのたびに階段を昇り降りしないといけない
- ・日陰での観戦では極寒
- ・食事を買うスペースが限られ、15分以上並ぶ必要がある
- ・ゴミステーションが外にあり、わざわざ捨てに行かないといけない
- ・応援のリズムがわからず、盛り上がれない
- ・救護室もメインスタンド側にしかない
- ・最寄り駅が新山口からだと階段でホームを渡らないといけない

スポーツでは、選手のプレーからエネルギーをいただき、仲間と盛り上がり、大空の下で季節を感じ、地域の飲食店で美味しいものを食べて、という様々な要素が詰まっており、多くの方に参加してもらえたらと思いますが、参加しにくい環境があります。

パラスポーツが普及して来たのに、観戦者のダイバーシティ&インクルージョンに課題があるので、大きなミッションではありますが、スポーツ業界関係者の皆様からの期待も非常に大きい事業なので、しっかり取り組んでまいります。

※詳細は[こちら](#)

4) 社会人インターン募集

ドコケアでは社会人インターンを募集します。

※詳細は[こちら](#)